

# 尾

も人の頭になるという意味です。そういうわけで品質、デザインで絶えず独自性を求めています。



# 夢

# 追

# い

# 人

九銘ハウジング(株)

役員 佐藤

久美子さん(28)



様々な家具製品が揃う日本一の家具産地大川でも、とても珍しい家具を製造販売している企業がある。その企業は九銘ハウジング(株)(大川市木室)。ケヤキや屋久杉等の自然の造形を活かした趣のある家具を製造販売している。風格と面白みがあり、和洋を問わずどんな空間にも置くことができる。

役員の佐藤久美子さん(二十八)にお話を伺ってみた。

素材のすばらしさには定評がある。ケヤキ、屋久杉などなど。最近では屋久杉の占める割合が多くなっているそう。なぜだろうか。「輸入品にまねのできない家具といえば、やっぱり屋久杉の家具です。付加価値も高く、競争力もあります。それでつのブランドとして屋久杉を全面に出すようになりました。大川でも輸入家具が台頭してきましたから、時代に応じた戦略だと考えています。」

どんな状況でも企業の独自性を追求するのは、創立以来九銘ハウジングの企業理念。「鶏頭牛尾」がモットーになっているそう。鶏頭牛尾とは、小さくても人の頭になるという意味です。そういうわけで人まねのできない材料、品質、デザインで絶えず独自性を求めています。」



# 鶏頭牛

鶏頭牛尾とは、小さくて人まねのできない材料、



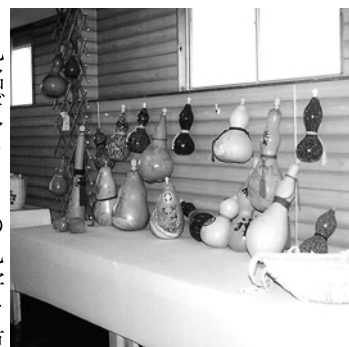
屋久杉は年に四回鹿児島で開かれる『屋久杉市』で仕入れる。一回に付きトレーラー二台分になる。これらは勿論伐採されたものではない。倒木材である。天然記念物として伐採が制限されているからだ。ではどんな工程で製品を造り上げるのだろうか。「それらは天日で五年、その後室内で二

年乾燥させる必要があります。そうしないとい材にはなりません。その後社長が全体的なデザインをし、十二名の職人さんたちが細部のデザインを決めていきます。その後はペーパーがけ、加工、組み立て、塗装といった大まかな流れになります。こうして大体年に四つずつ新作を作り上げるようにしています。」

九銘ハウジングには九州二円から顧客が訪れる。特に北九州、福岡、熊本などが多いそうだ。そのほとんどが口コミによるもの。たびたび芸能人やスポーツ選手も買い求めに来る。二ヶ月ほど前からはPRのため地元の観光会社に委託して、二泊二日の見学コースを始めた。「福岡空港、太宰府、吉野ヶ里、柳川川下り、昇開橋などの間に『九銘ギャラリー』見学を含めた企画です。たくさんの方々が利用して頂くよう期待しています。」

九銘ギャラリーでは、地元高齢者の興味深い作品も展示されている。「私たちは高齢者の作品を展示する場が少ないと痛感しています。大川には能面彫刻、人形、わら工芸など匠(たくみ)の技を持った高齢者がたくさんいらっしゃいます。それで三階スペースの一部を開放して、作者の名前入りで作品を展示

しています。秀でた技術を多くの人たちに見ていただきたいですし、また高齢の方々の生き甲斐づくりに役立てばとも願っています。」



九銘ギャラリーの見学を希望される方は、同社(電話/〇九四四一八八一〇八八)にお問い合わせください。